夕刊
七月二十一日發行
定價一ケ月金六拾錢（郵税拾五錢）
廣告料金（本紙掲載）一行金拾錢（二行目以下一行金五錢）
（日曜祭日翌日休刊）
磐城新聞社
福島縣磐城郡平町字本町
○磐城新聞社出張所
東京市麻布區霞町十六番地
電話麻布（ヘイフ）一七〇番
電話五六四番
○磐城新聞社出張所
東京市芝區新橋一丁目
電話新橋（ヘイ）一七〇番

歌集は出たけれども

白木英尾

五月中旬には出せる筈であつた歌集『はまゆふ』が遲れに遲れて漸く出來上つつて取かゝつたのが、先づたが、私たちの最初の見込みとは非常にかけはなれた藥書で承諾云々の申込書をものの無論私たち以上に幻滅を感じた人はあつたらうと思ふ。然しこんな計畫は今後幾年の後果して誰人が爲し得るか知れないものであるから、いろ〳〵の點に於て私たちは能ふかぎりの努力をして眞面目にやつてきたのである。それにも不係斯樣な不滿足なものが出來てしまつたことは洵に遺憾なことで、編輯員の一人としてあらためてお詫ひしておく。殊に申譯けないことをしたのは萩原たけ子夫人の原稿が、どうしても間に合はなかつたことである丁度夫人自ら高久曉霞氏を訪ねて二三日後には不測の禍をうけ私たちとの接觸を一切遮斷されてどうにもならなかつたことは返す〳〵も殘念なことであつた。計劃が豫定通り捗つてゐたならばこんなことにならなかつたので、萩原さんに對しても洵に濟まないことをしたと思ふ。

『詩南車』終刊號を見ると判るやうに、番初の人選には相當苦心したが計劃が唐突であつた爲め各自に對し諒承を求めてゐる暇がなく多少天下り式であつたが廣告と共に承諾を求めたのであある。これが私たちとしての一つの手落ちであつた。誰しも自分の歌を一圓位の歌やら感謝やらとにかく私たちの計劃を喜んでくれる人も澤山あつて、こんなに期待してくれるこの人達の爲めにだけでも百圓以上の經費は惜しくない。といふやうな氣持が編輯員一同の胸に湧いてきて殆と二ケ月も遲れてしまつたが、どうやら公約を果すことが出來てホッとしたばかりである。かうしてホッとしてみるがこんなことは選擧運動と同じく『もうやるもンでない』と痛感せざるを得ない。私自身も、歌なんてものをこねくつて世の有象無象のお先棒になるのはこれでごめん蒙る。そしてこれは恐らく私ばかりの心境であるまいと思ふ。

磐城新歌壇

小山田滋選

『それぞれの望み』

○蒼白く鏡に映るわが顏をしみじみと見る夏の朝なり　　青山貞三

○煙草の匂ひかすかに思出を殘して消えし線香花火

○百姓の願へる雨や今日降りて日曜われに思ふとなし

○それ〳〵の望みを持ちて學び居る子等の姿を思ふ朝なり

○新しき作業の服にうすぐろくインキ付きしもなにか親しき

晴耕雨讀

ささきあきら

内藤露沾公の傳

磐城平の城主、大名俳人として知らる、明暦三年五月朔生る。

下野義英といひ、父風也（後泰）とともに西山公因の門に學び、後芭蕉其角等と交はる。露沾はその號なり別に遊菌堂、傍池亭とも號す。寛文十年十二月二十八日下野守從五位下に叙し侍病によりて籠居せり。

その一方には丁寧に激勵考へられることなんだ。口ん蒙る。そして頭で諒承を求めたり再三文書をやつたりしても返辭さへ寄こさず遂に應じてくれなかつた人もあつて、私たちの最初の意氣込みも、えゝ面倒だ、止めつちまへ！

燦爛たる夏の陽を浴びて滿々と湛へた水中の彼方ああ陸あげの聲が聞ゆる亂れ走る足音

板橋をはこばれ、山と積まる魚

漁港にて

栗原北斗

初め風虎は五十二歳にて封をつぎ頗る治蹟ありしが老臣上田外記、松宥族之介等密に逆意を抱き、姙娠したる族之介の妻を風虎の侍女に上せて子を生ましめ、これを風虎の實子に巧みて内藤大藏と名づけ、風虎に淫酒をすゝめ、終に亂心とせしめ、大藏を嗣立せんと共に露沾をば高月に幽居せり、然るに淺賀竹右工門といふ者族之介を亡さんと謀りて殺されたるが間もなく族之介及大藏病死して事落着せり

これより露沾俗事を煩しとしたりけん、弟義孝に封稱して、幕府に訴へ、それを讓れり。

拈華微笑

◇精一杯闘ふのみと。スピリットは其で佳矣。磐中平商選手奮へ

◇大衆向の鎗夏讀み物にもグロ過　あす第一丑、鰻

◇陳情がヒッ附いて離れなかつた蛭田川改修愈々ものになるか

◇水銀柱の奮騰に坩堝は沸る。文字通り釜中に座する思ひ

○……○

漁夫の汗ににぢんだ顏にも喜びが溢れてゐる此の喜びの何處に自暴喧嘩身賣の黑點が隱されてゐるだらうそれが不漁不況に醸されるにしても生命をかけての生業にあまりにも酷い運命ではないか亂れ飛ぶ鳥も嬉しく聞ゆるが陸あげの聲が悲しく浪にもまれてうるんで聞ゆことよ

『わしら濱の子海の親沖もなぎて赤銅はだに吹かす今日の日今日の日が待たれたよ』

私しの胸に旅愁ににた、ほろにがいもを燒き付けた。

社會の今日

○

すべて求むる者は得、たづぬる者は見いたし門をたゝく者は開かるゝなり

新約書　末うすく落ちゆく秦智の大瀧の、するつかたかけて湧ける霧雲

若山牧水

△源頼家征夷大將軍となる（建仁二）△平野國臣刑せらる（元治元）△米國倫敦海軍條約に署名す（昭和五）

7月22日

講談　劍火無情（72）

津屋義人作
菅野祐作畫

磯ケ濱引揚げ（三）

易者細川阿龍軒に會つて煙に卷かれて歸つた番頭半助は、鶴屋の奥座敷にゐる彼の女客の前へ出た

家の内は上を下への大騒動の中に、女客は酒肴を前に、もう耳は熱し、兩の頰は櫻色に、愈々妖艶さを增してゐる

『ヘイ、お使ひから歸りまして、何うも何だか狐につままれたやうで突如細川先生は失せ物だらう。失せ物の方角は俺の前詳しく言はうなら、お前の懷ろに在ると、斯樣に被仰いますので……』

『オホ、ホ、御苦勞樣。それで手紙を御覽になつてのお返辭は？』

『ヘイ、唯磯ケ濱と言へ、別に返辭は遣らんよと被仰いました』

『ア、そうでしたかい。マアお使ひ賃に一つ上げませう』

『有難う存じますが、私はもうお酒どこじやございません。あの大砲の音を聞きましては、第一お使ひに參る途中で、逃げ支度の人達女まで偉いのがあらはれてゐる。其處へ表の方から、主人市兵工も不審顏して『コリャ誰か居らんか、吾々は市中改めの役人である城下へ怪しい者が入込んだに依て、宿屋料理屋は室毎々々を檢めるぞ』

陣羽織に手槍といふ嚴めしい扮裝の武士、十五、六人店先に突立つた

『ソレお檢めだ』

家内中騒ぎの中の二度吃驚、泥草鞋のまゝバタ〳〵と押寄つて來るので番頭、

『エ、申上げます、客人は先刻の大砲の音で、皆何れへか行つて了ひまして、お荷物だけはお預かり申してあるやうな始末でございます』

『荷物とて油斷はならん。取調べるから左樣心得ろ』

『それに今日た着きになつた許りの御婦人のお客樣が一人、もう夫切りでございます』

『女とても客赦はない、取調べを致すに依り案内に及ベッ』

權柄づくで叱り散らすので半助は止むなく先へ立つて奥座敷へ案内する

氣の利いた若いをんな一人を附切りにして置いたのが、銚子を持つて廊下へ出て來た

ピカリッと光るは引つ提げた手槍の穗尖をんなはブルッ〳〵頭えて逡巡した

それに構はず、ツカ〳〵と塗り骨障子の外に突立つ番頭は先觸れの積りで障子を少し開けながら

『エ、お檢めでございます市中お改めのお役人樣が見へました』

流行パラソルの特價品陳列
ジョセット　フラット
二重張……三圓八十錢
ヤツル
電一四〇

土用丑の日　七月廿二日　八月三日
魚榮自慢のうなぎ丼　金三十五錢　金五十錢
蒲燒　金五十錢以上
右吉例により奉仕的に勉强致しますから多少に不拘御用命を御願致し舛
（田前迅速）
魚榮　田町　電話四二四番

吉例賣出し　七月廿二日　八月三日は土用の丑の日
大蒲燒。うな丼
例年の通り多少不拘御命を御待して居ります。
出前は迅速仕ります……。
松本樓　電話百十三番

七月二十二日は土用丑の日
ヒレ　金七〇
ロース　金六〇
最上　金五〇……上肉　金四〇
中肉　金二五
並肉　金二〇
牛肉の御用命は品自慢の
大塚肉店へ
驛前通り　電話六六七番

夏の健康に
定評ある……
江戸川のうなぎを
七月廿二日　八月三日は土用の丑の日
うなぎ料理專門　江戸川
電話五四七番

吉例賣出し
七月廿二日は土用丑の日
牛肉の御用命は他店の追隨をゆるさぬ
三二三やへ
電話三二三番
田町大通り

土用丑の日
七月二十二日…八月三日
うなぎ御用命は奴へ
うなぎ奴
田町　電話二二番

今般た客樣の御勸めにより、大正五年當時賣出した事ある天ぷらを始めました、何卒御試食を願ひます
主材料　車海老　銀穴　魚子
其他御注文に應ず。
金ぶら
平町田町
大貞
電話四百十三番

土用丑の　七月廿二日　八月三日
吉例により！
牛肉大廉賣
ヒレ　金七〇
ロース　金六〇
最上　金五〇……上肉　金四〇
中　金二五
並　金二〇
多少不拘御用命御願申し上ます。
田町
石川亭
電話四三番

ミシン
ガー
帝都販賣所
磐城平新聞社
大通り
新品並ニ格安品
現金及ビ月賦販賣
針油、糸付屬品
修繕及ビ中古品
ミシン裁縫教授
出張募集
ミシン金融並ニ買入
責任保証ミシン債貸

夜診療
胃腸科　内科　十二指腸虫病　專門
梅毒科　淋病　皮膚病　婦人病　專門
松村醫院
胃腸病　性病科
（平町南町電一〇七番）

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士山内亨吉
入院隨意
病室完備
電話六九一番

精一ぱい奮鬪の覺悟

愈々縣下大會の征途に上る

磐中・平商野球選手の意氣

明後廿三日に迫つた第十二回縣下中等學校体育大會のトップ！野球、庭球にその先陣を承ら磐中、平商兩軍は愈々明廿二日午前五時四十二分發で磐中樋口（野球）安部源（庭球）平商宮澤（野球）室原（庭球）の各教諭引率の下に野球軍は福島へ！庭球軍は若松へ喘の大會場に勇躍征途に上るが兩軍の野球キャプランは夫々左の如く語つて居る

磐中 小井戸主將談—今度の選手は殆ど卒業生より成つて居り今年勝たねばまたと好機はない、コーチを受けた後は外野の守備も固くバッターも相當利く樣になつたから先づ精一ぱい闘ふのみだ

商業 渡邊主將談—コーチャー招聘の折我軍の欠點であるバッテング、ピッチングも相當やつた、從來の七回戰が今回は九回戰だから根張りがない處に萬全を期しベストを盡して戰ふ。云々であると

キャプテン會 大會前のキャプテン會は野球は明廿二日福中に於て磐中小井戸平商渡邊、庭球は同日若松工業學校で磐中小川、平商安島の各主將出席の下に開かれ組合其他を決定すると

無言の凱旋

卅三柱平驛通過

事變戰死者旭川第二十五聯隊外五部隊の遺骨三十二柱は二十三日午後一時五十一分着同五十八分發で平驛を通過する

大藏省預金部へ

郡下町村借入希望 約三十萬圓

稅務署で目下取纏め中

平稅務署では本年から預金部で貸出し實施中の普通事業資金、高利債借替資金、農村振興其他土木事業資金借入申し込みに對し目下各町村の分を取り纏め中であるが現在受理狀況は

高利債借替十八萬四千二百圓（四件）農村振興事業資金四萬千百圓（二二件）普通事業資金七萬千七百圓（三件）

で前記資金は來月十五日を以て申込みを締切り來年四月三十日までに融通する筈であると

高月の七河童出場

來月五日の二高大會へ

第三回關東北、北海道中等地に出發するが宿舍は左の學校競泳大會は來月五、六の兩日仙台二高プールに於て開かれるが磐中では本日左の如く選手を決定猛練習を開始すると

主將—中津秀幸、國井靖郎、佐藤文雄、澁谷春雄、水野秀三郎、志賀貞介、菅野正雄

磐中軍宿舍 磐中武道競技の兩軍は來る卅一日午前八時十九分で夫々大會

郡下小學兒童競技會

愈々十月廿九日と決定

郡下小學兒童競技會は愈々來る十月二十九日午前九時から磐中グラウンドに於て開催する事に決定したが種目は左の如くこれが代表委員會は同月十四日午前十時から第一校に開き組合せ其他を協議する

五十米、百米、二百米、五百、六百、八百各繼走三段跳、走高跳、ハードル、ボール投

平商剣道猛練習

來ん大會に少からず期待されて居る平商剣道部では最後の五分間を要を認め縣土木課北村技手は昨二十日金澤及仙台高工實習生三名と來郡實習生指導を受ける事になつた

後藤氏（平町出身）の慘殺事件

二年越しで有罪と決定

妻と番頭長谷川（內郷）公判に附さる

東京で行はれた事件であるが登場者が平町や內郷村の出身な丈け地方人から多大の關心を拂はれた殺人事件が今回漸く二年越しで始めて審理を了え有罪と決定公判に附された

一昨年八月二十六日東京千にあらずとして釋放し三男駅ヶ谷、原宿省線定期券月三郎と母モトが共謀でなし賦販賣業丸菱商會主人平町が犯行であるとして更に三舊城址生れ後藤忠弘（KO）氏郎を檢擧したが、三郎の嫌が何者にか慘殺された事件疑も怪しくなり結局モトと は最初警視廳では被害者の妻モト（五六）〜次男正（三二）郡內郷村生れ長谷川繁（三六）の痴情關係ある同家の番頭本の兩名共謀の犯行と認定し兩名を殺人罪で起訴し當時は取調べの途中直正は犯人稀有の複雜な事件とされて

磐炭一行海へ！

あすの小名濱を賑はす

今夏最初の團体清遊

磐城炭鑛役付會主催の海水浴は二十三日の第四公休を繰り上げ明二十二日の第一温友會、青年會、修養幹部監督所、野球練習。縣土木課、郡山、平、三春、須賀川、柳倉各土木監督所對抗野球試合は三十日午前九時から郡山市安中グラウンドで行はれるので平土木監督所では必勝を期し目下猛練習中である

蛭田川改修實現か

昨日から實測開始

平町衛生注意 平町役場では愈々傳染病季に入り現在五名の隔離者ある爲め明二十二日左記各項の注意書を一般に配布する

蠅の驅除、飲食物、食器煮沸、衣服洗濯、寢具消毒

平町役場では目下北海道自作農移住者を募集中である

移住者募集

縣下周遊テント生活

平商の二君明日出發

縣下をキャンプ一周する平商五年生山家正、門馬一の兩君は愈々明廿二日午前五時四十二分の磐越線下り一番で出發するがコースは左の如く猪苗代湖畔以後は未定でなるべく磐梯山にも登る豫定であると

平—若松—柳津—湯上温泉—東山—猪苗代

共濟委員常務員會 二十七日午前十時から平國体事務所で開く

投槍

投書歓迎

水を大事にせよ

◇四萬人に給水しても大丈夫と云はれて居る大平町の上水道だ。何もケチケチするに當るまいと云つてしまへば其迄だが平常から道りつ放しな共用栓の近頃の荒つぽい使い方には實際驚かされる

◇米研ぎ洗濯の違反は今に始めぬ事乍らドン〜出し放しにして大盥の中に腰のものなんかを泳がせ居るなどは時節柄餘りにも亂暴だ。そして簡單服の胸をハダけて臺灣南瓜の樣な乳房を子に啣ませてウト〜してるんだから當てられる

◇それからメートルが上ると云ふので自身立派な乘つてるものの故意や惡戯で無い事は云ふ迄も無いが其の事實を知つたなら直に止まつて相手に陳謝する位の良心はあつて欲しい、カチンと云ふ音響をきき流して行つてしまふなんて餘り圖々し過ぎる。

（田町實見生）

郡山團体

日曜に四倉へ

四倉通信

故買、銅線泥に關聯した內郷村曲山倉平（三九）同村細谷正次（三五）にかゝる贓物故買の公判は昨廿日午後一時から平區に於て竹內判事係三堀檢事關與、眞木、永野兩辯護人列席の下に開廷、

曲山懲役六ヶ月罰金八十圓細谷懲役五ヶ月罰金五十圓を求刑された

郡山團体

五百餘名

立正大學 明二十二日午巡回講演 後七時から平

耳鼻咽喉科專門

醫學士 鈴木正男

平町田町（電話五八番）藤田女學校前

歯科口腔外科

日本歯科醫學士 鈴木喜政

內郷村高坂磐炭病院前

鈴木醫院

物騒な辻强盜

若い人妻を襲ふ

犯行後間も無く就縛

玉川村林城辻前三武妻長瀬疑者として當時住所不定無チカ子（三二）は昨二十日午後職栃木縣那須郡黑羽町前田八時頃小名町からの歸途同村住吉地內道路を通行中自轉車で追ひ掛けて來た三十才位勞働者風の男に首を絞め倒され現金二圓入財布及强姦で八年の服役を了へ去月二十五日宇都宮刑務所を出所後實兄赤井村坑夫新之助方に寄食して居たものと同九時半頃鹿島村地內で被害人同日目下嚴重取調中

炭鑛行進曲

縣賞募集

細目追て發表

（審判會田病院長、金原主事五日より五日間縣師範學遊する員も豊間方面へ清遊する

軌道賃割引

今廿一日より實施

磐城海岸軌道會社では今二十一日より來月三十一日迄植田、小川郷間各驛よりの乘客に對し小名濱往復軌道賃の三割引をすると

船引から百名 今二十一日は船引き方面から平驛及た

磐崎の違反

罰金百圓求刑

磐崎村會議員吉田直文氏の違反に關聯する同村御代德治氏の正式裁判は今廿一日午後一時から平區に於て竹內判事、三堀檢事關與で開廷略式通り罰金百圓を求刑松野尾辯護士の辯論に入つ

小名濱に豚コレラ

小名濱町上明神町

小松幸助飼養豚牡二頭牝一頭は十九日何れもコレラと決定直に撲殺大消毒した

小麥共同販賣

郡農

業倉庫穀物共同販賣聯合會では郡內生産小麥一萬二千俵中八千二百俵（四倉驛七車、平一三、綴、湯本各一植田八、勿來一一、泉五、赤井三、小川二合計五一）を共同販賣する事になりその第一回として二十五日植田驛の二車に就て行ふと

郡山團体

五百餘名

立正大學 明二十二日午巡回講演 後七時から平內郷修養部主催でマルトモホールに於て開催するが講師左の如し

講演部長守屋貫敎、學生內藤定、藤澤丹昌、吉田知一、永口義寶

通話料督促

平局去

月中の通話料金未納者は今二十一日現在で八十餘名で朝來督促に努めつゝあり前月に比し未納は幾分減少するらしいが最後の滯納者には例により通話停止を斷行する

須賀川青年團 須賀川町中宿青年會一行十八名は鈴木副組長引率で昨二十日來郡神谷農試分場勿來關跡川尻鹽釜神社を視察し同日歸町した

村農會視察團 安積郡大槻村農會視察團一行八名は昨二十日來郡農試分場泉村玉露農事實行組合小名濱築港等を視察して今二十一日歸郡した

平米穀商値上 平米穀商組合では十八日から左記の如く五厘の値上をなした

上白一七錢、中白一六錢五厘、並白一六錢

小名濱町上明神町 小名濱町豚コレラ

三小學校長出席 平三小學校長は來月一日から五日間柳倉小學校で開かれる第十四回通俗夏季大會に出席する

郡下聯合教育總會 來る十一月中旬平第一校で開き會員の意見發表がある

鐵道廉賣デー 鐵道では二十三、四の兩日平鐵道倶樂部、二十五日綴驛の日割で從業員に對する洋服、モスリン、呉服類の廉賣を行ふと

故買、銅線泥に關聯した內郷村曲山倉平（三九）同村細谷正次（三五）にかゝる贓物故買の公判は昨廿日午後一時から平區に於て竹內判事係三堀檢事關與、眞木、永野兩辯護人列席の下に開廷、

曲山懲役六ヶ月罰金八十圓細谷懲役五ヶ月罰金五十圓を求刑された

四倉通信

郡山團体

五百餘名

日曜に四倉へ

立正大學 明二十二日午巡回講演 後七時から平內郷修養部主催でマルトモホールに於て開催するが講師左の如し

講演部長守屋貫敎、學生內藤定、藤澤丹昌、吉田知一、永口義寶

營林署對局野球戰

平營林署對平郵便局の野球試合は今二十一日午後三時から平第一小學校の主催に係る五百名の團体が來遊する事になつてゐると

増築校舍上棟 四倉小學校増築校舍の上棟式は今二十三日の日曜には郡山驛旅等其の他衛生方面の設備は昨二十日を以て完成、客も漸次入り込んで來たが

恩給年金

低利立替

軍人官吏其ノ他一般（教員）モ速カニ（巡査）御用立致シマス。

御希望の方は表記へ御來談を乞ふ。

平町六丁目百〇壹番 鈴木龜雄

金融

藥草宣傳

藥草研究者平町五町目佐川定次郎氏は明日の土用第一丑を前に今二十一日村木町大杉稻荷神社の祭典を利用し同町青年團後援で藥草の術明宣傳を行ふと

三校書方擔任出席 平三校書方擔任訓導は來月

通話料督促

平局去

控訴判決一束

平

井村佐藤金彌（KO）鈴木高衛（KO）の兩名にかゝる傷害事件の控訴公判は原審通り兩名共罰金二十圓の判決、

小名濱町竹町大森捨吉（三三）にかゝる横領詐欺事件は原審懲役六ヶ月に對し四ヶ月

郡下聯合教育總會 來る十一月中旬平第一校で開き玉露農事實行組合小名濱築港等を視察して今二十一日歸郡した

平米穀商樂部、二十五日綴驛の日割で從業員に對する洋服、モスリン、呉服類の廉賣を行

前田醫院

院長 前田清美

植田町電話一二四

伊豆少將講演

伊豆

凡夫少將の民風作興講演會は昨二十日午後二時より四倉小學校に於て開催、午後十一日午後一時より學行された

軍人官吏其ノ他一般

御用立致シマス。

鈴木龜雄

藥草宣傳

伊豆少將講演

前田醫院

鈴木醫院

四時半盛會に終つた

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神醫會

舊七月 土曜 新聞
六 己丑 月 七 二十二日
一 破 月 二 佛滅 三 大安 四 赤口 五 先勝 六 友引 七 先負 八 仏滅 九 大安 十 赤口 十一 先勝 十二 友引
日 柳宿